

一人でも多くの人にスポーツのきっかけを

TAKE FREE

ご自由にお持ち下さい

Health & Sports

Life

ヘルス & スポーツライフ

110

January 2018



Interview

[スキージャンプ]

長野冬季オリンピック スキージャンプ団体金メダリスト
雪印メグミルクスキー部監督

原田 雅彦

ラグビーワールドカップ2019™ 札幌開催

あなたは大丈夫?
運動前、運動中、運動後



一般財団法人 さっぽろ健康スポーツ財団

原田 雅彦

一人ひとりの目標へ精いっぱい努力し
ジャンプの新たな歴史をつくってほしい。

いよいよ開幕する「平昌オリンピック」。注目されるスキージャンプについて、オリンピックでも大活躍された原田雅彦さんに話をうかがいました。



SKI JUMP
Masahiko Harada

Photo (Interview) by Hiroo Takatsu [STUDIO TAKE 2]

だ瞬間がよく分かるそうです。

「スタートから最後まで一ヵ所にいて全部を見られますが、非常に魅せるスポーツだと思います。テレビ観戦なら各選手のスタイルが独特で、ジャンプスースやヘルメットでも個性を出していることなどに気づいてほしいですね」

選手には急激に伸びる時があり、それを支えるのも指導者の役目。

「可能性の伸び幅というのは、たぶんどの競技でもあると思います。今男子ジャンプでは当社所属の小林潤志郎選手が活躍していますが、正直言うとついこの前まではそんな選手ではなかったのに、今季ワールドカップで初優勝。選手がスポーツで自信をつけた時の伸び幅は、計り知れない感じでいるところです。だから、スポーツは楽しいんだと思ういます。ただ、答えがあるならみんなに教えたいですが、そうではないので、環境を整えて、一人ひとりが目標に向かって精いっぱい努力する」とがやはり大事だと思います」

平昌オリンピックに雪印メグミルクスキー部からは伊東大貴選手、小林潤志郎選手が代表入り。監督として迎える初のオリンピックは、また違う思いなのでしょうか。

「実際、ひとことですから(笑)。そういうふうに、僕が飛ぶわけではないという客観的なところを、あと持つわけです。自分も飛ぶ気になると、現役の時と一緒に気持ちに

だ瞬間がよく分かるそうです。

「スタートから最後まで一ヵ所にいて全部を見られますが、非常に魅せるスポーツだと思います。テレビ観戦なら各選手のスタイルが独特で、ジャンプスースやヘルメットでも個性を出していることなどに気づいてほしいですね」

選手には急激に伸びる時があり、それを支えるのも指導者の役目。

「可能性の伸び幅というのは、たぶんどの競技でもあると思います。今男子ジャンプでは当社所属の小林潤志郎選手が活躍していますが、正直言うとついこの前まではそんな選手ではなかったのに、今季ワールドカップで初優勝。選手がスポーツで自信をつけた時の伸び幅は、計り知れない感じでいるところです。だから、スポーツは楽しいんだと思ういます。ただ、答えがあるならみんなに教えたいですが、そうではないので、環境を整えて、一人ひとりが目標に向かって精いっぱい努力する」とがやはり大事だと思います」

平昌オリンピックに雪印メグミルクスキー部からは伊東大貴選手、小林潤志郎選手が代表入り。監督として迎える初のオリンピックは、また違う思いなのでしょうか。

「実際、ひとことですから(笑)。そういうふうに、僕が飛ぶわけではないという客観的なところを、あと持つわけです。自分も飛ぶ気になると、現役の時と一緒に気持ちに



1)2)雪印メグミルクスキー部監督として選手の指導に当たる原田さん。ジャンプ大会のテレビ解説者なども務め、ジャンプの魅力を広く伝えている 3)ジャンプ観戦は会場に足を運ぶのがおすすめ。より迫力を味わえる 4)平昌オリンピックでも活躍が期待される2014年ソチ五輪団体銅メダリスト・伊東大貴選手



なつてしまつて、いつも通りではなれなくなりますから」

ジャンプは北海道の文化ともいえるスポーツ。プレッシャーは大きくなります。それを選手は期待に応えようという気持ちに変えて競技に臨むといいます。

「選手はとにかくジャンプが好きで、距離が伸びる時の感覚はほかに代わるものがないから、一度それを味わうと次、また次と思って飛びます。スポーツ人として、競技者として、競技会で結果を出すことに物事を向けていくと、プレッシャーは当然かかってきます。そのプレッシャーは何なのかといふことも感想を聞いて、好きなスポーツと向き合つてほしいですね」

さらに先に目を向け、2026年札幌冬季オリンピック・パラリンピック招致に向けて活動中です。

オリンピックでの日本選手の

27年の競技生活の中で、原田雅彦さんは数々の実績と感動を残し、現在は雪印メグミルクスキー部監督として所属選手8人の指導にあっています。子どもの頃からスポーツが大好きで、ジャンプが大好きで、ジャンプと出会ったのは10歳の時でした。

「小さな町で生まれたので、遊び

がとにかくスポーツだったんだ

オリンピック・パラリンピック 魅力発信! ストリート

2月に開幕する平昌オリンピック・パラリンピックに合わせて、駅前通地下歩行空間でイベントを開催します。

これは、オリンピック・パラリンピックやウインターリースポーツの魅力を感じてもらうために実施するもの。道内出身者を含む世界のトップ選手の試合を大型スクリーンで観戦し、大会の熱気や感動を共有できるほか、体験型展示で競技にも挑戦できます。

さまざまな催しが行われる会場に、気軽に立ち寄ってみませんか。



220インチの大型スクリーンでパブリックビューイングを行います。
写真は2017年冬季アジア札幌大会で同スクリーンを使用した時の様子。

期間

2018年2月5日(月)～25日(日) 10:00～19:00

パラリンピック期間中(3月9日～18日)にもチ・カ・ホでイベントを実施予定です。

[主な内容]

平昌オリンピックパブリックビューイング

2月9日(金)～25日(日)

パブリックビューイングは一部時間を延長して行います。

オリンピック・パラリンピック競技体験コーナー

道産子アスリート紹介パネル展

札幌オリンピックミュージアム出張展示

PMFコンサート 2月21日(水)

*期間中は展示物の入れ替えを行います。展示内容は、札幌市スポーツ局ホームページ(<http://www.city.sapporo.jp/sports/event/index.html>)でご確認ください。

[主催] 札幌市、NHK札幌放送局、札幌オリンピックミュージアム、冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致期成会(後援:JOC、JPC)

平昌オリンピックへの意気込み | 平昌オリンピックに出場する選手からコメントをいただきました。

女子アイスホッケー

平昌オリンピック日本代表



藤本 那菜

Nana Fujimoto

1989年3月3日生まれ。北海道札幌市出身。父の影響を受け6歳から地元クラブの月寒ストロンガーでアイスホッケー競技を始め、2007年より日本代表。2015年の世界選手権では、日本人選手初のベストゴールキーパーを受賞した。現在はボルテックス札幌に所属。

今回の平昌オリンピックは私にとってソチに続く2大会目のオリンピック出場となります。ソチでの悔しい思いや反省を生かし、この4年間この日のために練習に励んで参りました。今大会まずはオリンピックでの初勝利を挙げること、そして念願のメダル獲得を目指し、日本代表としての誇りを持って戦ってみたいと思います。温かい応援やサポートしてくださっている方々にプレーで恩返し出来るよう、結果に拘って良い報告を持ち帰りたいと思いますので、引き続き応援の程よろしくお願ひ致します。

男子スキージャンプ

平昌オリンピック日本代表



小林 潤志郎

Junshiro Kobayashi

1991年6月11日生まれ。岩手県八幡平市出身。小学5年生からクロスカントリー競技を始め、東海大札幌2年生時に、ノルディック複合からスペシャルジャンプに転向。2014年、雪印メグミルクに入社。

初めてオリンピック代表に選ばれ、とても嬉しいです。子供の頃、長野オリンピックを生で観戦してから、オリンピックは絶対に出たいと思っていました。今まで支えて下さった方々に恩返しができるように、また、故郷の岩手県や東北地方の皆さんのが元気になるようなビッグジャンプができるように全力で頑張ります。たくさんの応援をよろしくお願いします。